

平成 18 年度当初予算 重点プログラム別概要

くらし 11：子どもたちが安心できる学習プログラム

(主担当部：教育委員会)

- (1) 生徒指導対策事業
- (2) 総合型地域スポーツクラブ育成事業
- (3) 心の相談体制整備事業
- (4) 不登校対策事業
- (5) 非行防止地域ネットワーク推進事業

< プログラムの事業費 >

(単位：千円)

	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	3 か年計
当初計画	340,440	387,000	413,000	1,140,000 程度
見直し後	299,764	474,978	464,118	1,238,860

注：「見直し後」の 16 年度は決算額、17 年度は予算現額、18 年度は当初予算額

< 事業目標 >

目標項目		平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度
(1) 校内暴力発生件数	目標値	1,000 件	850 件	800 件
	実績値	943 件		
(2) 総合型地域スポーツクラブ数 (累計)	目標値	20 クラブ	30 クラブ	40 クラブ
	実績値	27 クラブ	34 クラブ	
(3) スクールカウンセラー配置学校数	目標値	90 校	120 校	120 校
	実績値	90 校	120 校	
(4) 指導により登校できるようになった児童生徒の割合	目標値	34%	36%	38%
	実績値	28.2%		
(5) 住民や関係機関等の主体的・先駆的な非行防止活動が展開している地域数 (累計)	目標値	6 地域	11 地域	11 地域
	実績値	5 地域	11 地域	

注：17 年度実績値は 1 月末現在で把握できる見込み値

< 進捗状況 (現状と課題) >

不登校の児童生徒数は、ここ数年同じ状況にあり、また、学校における校内暴力やいじめの件数も減少傾向にありますが、依然として厳しい状況にあります。

これらの問題に適切に対応するとともに、子どもたちの心の悩みや不安を解消するため、スクールカウンセラーを 120 校に、また、総合教育センターには臨床心理士 4 名を配置するなどして取り組んできましたが、引き続き安心して学習できる環境づくりを進めていく必要があります。

また、子どもたちの規範意識や社会性を醸成するための取組を、引き続き進めていく必要があります。

<平成 18 年度の取組方向>

校内暴力やいじめ、不登校などの諸問題に対応し、子どもたちが安心して学習できる環境を整備するため、今後も、家庭、地域との連携を一層深めて、生徒指導対策や非行防止の取組を進めるとともに、不登校対策や教育相談体制の充実に取り組みます。

また、総合型地域スポーツクラブの育成を支援し、子どもたちの規範意識や社会性を高めていきます。

<主な事業>

生徒指導対策事業【18年度当初予算額 57,053千円】(事業(1)の一部)

学校、家庭、地域、関係機関が連携して、子どもたちの規範意識や社会性の育成、生徒指導上の課題を抱えた子どもたちの支援を行うなど、学校における生徒指導に取り組みます。さらに、課題等を抱えた学校に、豊かな経験や専門的知識を持った人材を適時に派遣し、問題行動等への迅速かつ適切な対応を行います。

総合型地域スポーツクラブ育成事業

【18年度当初予算額 5,513千円】(事業(2)の一部)

県民の多様なスポーツニーズに対応するとともに、子どもたちがスポーツを通じて規範意識や社会性を身につけることができるよう、総合型地域スポーツクラブのマネージャーやスポーツ指導者の養成等を行います。

スクールカウンセラー等活用促進事業

【18年度当初予算額 222,485千円】(事業(3)の一部)

スクールカウンセラーを中学校、高等学校に、心の教室相談員を小学校、中学校にそれぞれ配置して、学校の相談体制を整備し、子どもたちが一人で悩みを抱えることなく、安心して学校生活を送ることができるようにします。

不登校を中心とした教育相談事業

【18年度当初予算額 34,798千円】(事業(3)の一部)

学校、教育支援センター(適応指導教室)、家庭等から寄せられる不登校を中心とした教育相談に対応するため、臨床心理士の資格を有する専門相談員6名を総合教育センターに配置し、子どもたちの心の問題の解決に向けた体制の充実に努めます。

不登校対策事業【18年度当初予算額 7,160千円】

不登校の子どもたちの社会的な自立をめざし、市町教育委員会等と連携して、教頭等を対象とした研修を実施するとともに、教育支援センター等による家庭への訪問指導やフリースクール等民間施設の取組への支援を行います。